

富良野市における調査結果の概要

国語

算数
数学

理科

質問紙

平成27年11月 富良野市学力向上推進プロジェクト

平成27年度 全国学力・学習状況調査の富良野市における調査結果について公表します。

本市では、「学びの大地」に根ざした富良野に育つ3本の木（「知育の木」「情意の木」「健康の木」）のより高い調和を目指しており、今回公表した学力調査結果はその一部です。

学力調査結果は、子どもたちの現時点での一面であり、今後の取組の資料とするものです。この結果を受け今後の本市の教育施策や学校の取組に活かしながら、本市教育を一層充実させて参ります。

また、保護者・市民のみなさまに学習状況・意識調査の結果をお知らせすることにより、富良野市の教育への関心を高め、市民総ぐるみで教育を考えていただく機会にしたいと思えます。

児童、生徒の学力の向上には学校と家庭や地域との連携が必要です。今回学習状況と意識調査（家庭や地域での学習や生活状況）を合わせて公表することで連携体制をより強くしていきたいと思っております。

なお、この学力調査の結果は、子どもたちが身につけるべき学力の一部分であり、これによって子どもたちの全てを評価できるものではありませんので、序列化や競争につながるものがないようご理解をお願いいたします。

調査の概要

◆調査の目的

- 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る
- 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる
- 以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する

◆調査の対象

小学校第6学年、中学校第3学年

◆調査の内容

- 教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)
 - ・主として「知識」に関する問題（国語A、算数A・数学A、理科）
 - ・主として「活用」に関する問題（国語B、算数B・数学B、理科）
- 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査
 - ・児童生徒に対する調査
 - ・学校に対する調査

教科に関する調査結果の概要について

◆教科に関する調査(国語、算数・数学、理科)

【小学校】

小学6年は国語・算数・理科の全ての科目で全国平均正答率を上回り、特に、国語B（「活用」に関する問題）において高い正答率となっています。

【中学校】

中学3年は、理科で高い正答率となり全国平均正答率を上回りました。国語Aは全国平均正答率と同等、国語Bは全国平均正答率と同値でした。数学Aは、全国平均正答率を上回り、数学Bは、全国平均正答率と同等※でした。

※ 全国平均正答率との差が3ポイント以内の平均正答率を「同等」としています。

本市では、これまでも、学校・家庭・地域と連携しながら、学校教育中期計画にある「知育の木・情意の木・健康の木」とそれを支える「学びの大地（関わり）」を育成するための取組を推進してきました。その成果は、様々な分野で児童生徒の成長の姿として発現され、それにふさわしい成果や高い評価を各方面から受けてきたところです。

そうした取組のひとつの現れとして、これまで全国平均正答率との差をなかなか縮められなかった小学校において今年度、国語・算数及び理科の全ての科目において全国平均正答率を上回る結果となりました。また、中学校においては、経年変化をみても、上昇傾向にあります。今年度も国語B・数学A及び理科で全国平均正答率と同値か上回る結果となりました。

今後も、これまでの取組の成果を活かしつつ、児童生徒の確かな学びの定着に向けて着実な取組を継続するとともに、学校・家庭・地域が連携し学力向上に努めていきます。

各教科の領域別の状況

小学校国語

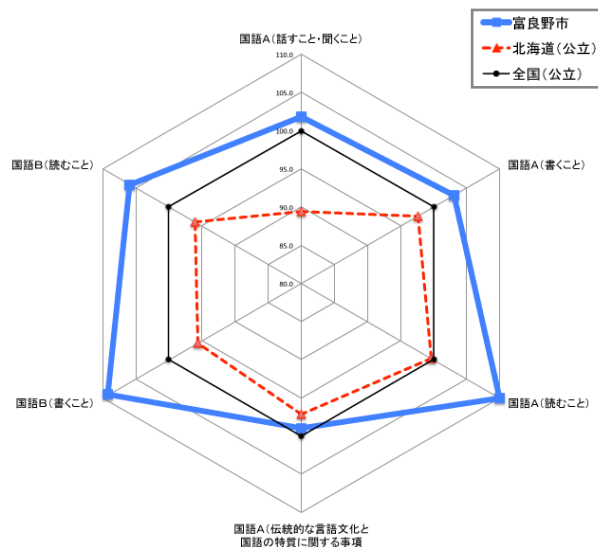
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の小学校国語A（「知識」に関する問題）

- ・国語Aの領域別の問題では、学習指導要領の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回る正答率となっています。

○富良野市の小学校国語B（「活用」に関する問題）

- ・国語Bの領域別の問題では、学習指導要領の「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を上回っています。



【課題】

国語では、文中における主語を捉えることに課題があり、主語と述語、修飾と被修飾との関係に注意し、文の構成を理解する指導の充実が求められる。

小学校算数

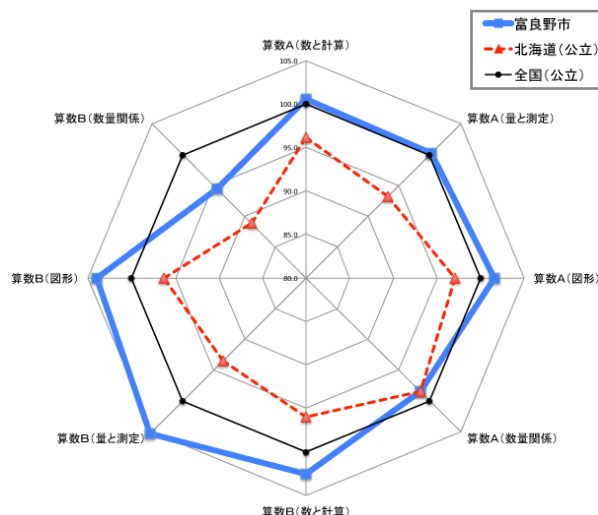
全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の小学校算数A(「知識」に関する問題)

- 算数Aの領域別の問題では、学習指導要領の「数量関係」の領域を除く領域で全国平均正答率を上回っています。

○富良野市の小学校算数B(「活用」に関する問題)

- 算数Bの領域別の問題では、学習指導要領の「数量関係」の領域を除く領域で全国平均正答率を上回っています。



【課題】

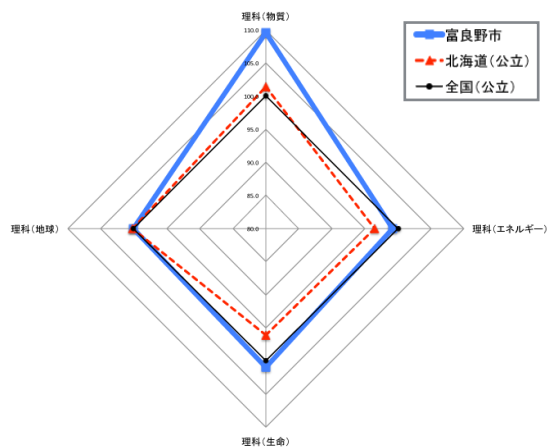
算数では比較量と割合から基準量を求めることに課題が見られることから、割合の考えを活用して、合理的に判断する活動や、考えの妥当性を評価するとともに、それを基に考えを修正する指導の充実が求められる。

小学校理科

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の小学校理科

- 理科の領域別の問題では、学習指導要領の領域における「物質」「生命」の領域で全国平均正答率を上回り、「地球」の領域は全国平均正答率と同値でした。特に「物質」の領域で高い正答率となっています。



【課題】

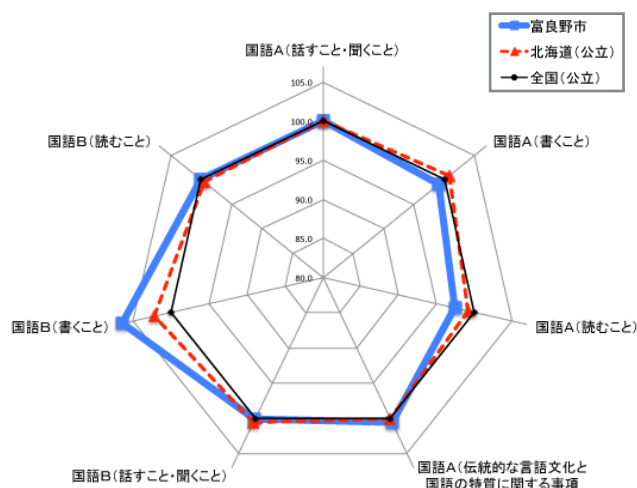
小学校理科では、グラフを基に考察して分析し、他と比較して解釈した内容を記述することに課題があることから、事実と解釈したことを示して判断の根拠や理由を説明する指導の充実が求められる。

中学校国語

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の中学校国語A(「知識」に関する問題)

- ・国語Aの領域別の問題では、「知識」に関する問題を構成する「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」で全国平均正答率を上回り、「話すこと・聞くこと」の領域で全国平均正答率と同値でしたが、「書くこと」「読むこと」の領域で全国平均正答率を下回っています。



○富良野市の中学校国語B(「活用」に関する問題)

- ・国語Bの領域別の問題では、「活用」に関する問題を構成する「話すこと・聞くこと」「書くこと」の領域で全国平均正答率を上回っており、「読むこと」の領域で全国平均正答率と同値の正答率となっています。

【課題】

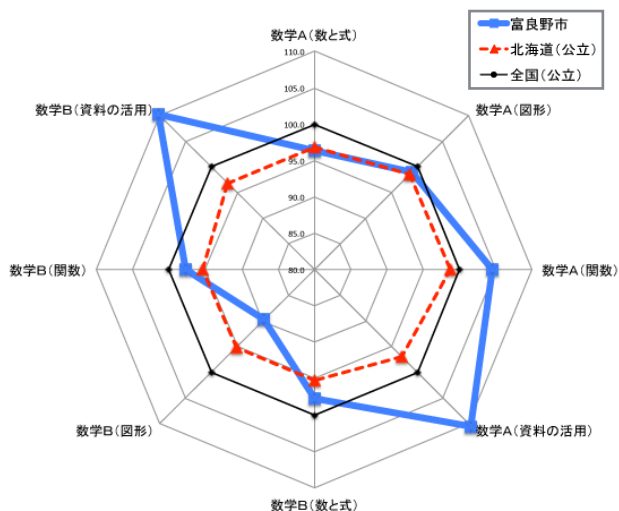
国語では、根拠を明確にして自分の考えを具体的に書くことに課題があり、自分の考えの根拠が明確に書かれているかどうかを吟味する指導の充実が求められる。

中学校数学

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の中学校数学A(「知識」に関する問題)

- ・数学Aの領域別の問題では、「知識」に関する問題を構成する「数と式」「図形」の領域で全国平均正答率を下回るものの、「関数」「資料の活用」の領域で全国平均正答率を上回っています。



○富良野市の中学校数学B(「活用」に関する問題)

- ・数学Bの領域別の問題では、「活用」に関する問題を構成する「資料の活用」の領域で全国平均正答率を上回るものの、「数と式」「図形」「関数」の領域では全国平均正答率を下回っています。

【課題】

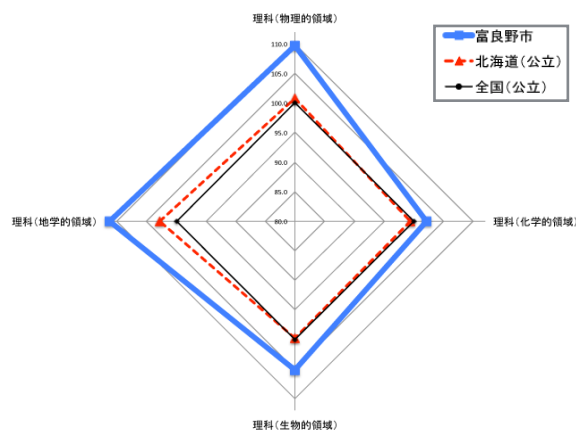
数学では、図形の性質を用いて問題解決の方法を数学的に説明することに課題があることから、図形の性質に着目し、数学的な表現を用いて問題解決の方法を説明する指導の充実が求められる。

中学校理科

全国を100とした場合の全道及び本市の状況をレーダーチャートで示したもの
(数値は、「それぞれの平均正答率÷全国(公立)の平均正答率×100」で算出)

○富良野市の中学校理科

- ・理科の領域別の問題では、学習指導要領の領域における全ての領域で全国平均正答率を上回っていますが、特に「物理的領域」「地学的領域」で高い正答率となっています。



【課題】

- ・中学校理科では、「課題に正対した考察をする」という視点で、観察・実験の結果に基づいて、自らの考えや他者の考えを検討して改善することに課題があることから、「仮説と実験の結果が一致しているかどうか」という視点を示して、検討して改善する場面を設定する等の指導の充実が求められる。

◆小学校6年時(平成24年度)の調査との比較

現中学3年生と3年前の小学6年生で受けた調査(国語、算数、理科)の平均正答率と全国平均正答率との差を比較してみました。小学6年生時点では、全教科で全国平均正答率を下回っていましたが、今回の調査では、国語・数学の2教科で全国平均正答率との差が同等あるいは上回るとともに、理科では全国平均正答率を上回るなど改善がみられました。背景には、小・中学校を通じて理解の程度に応じたきめ細やかな指導や授業改善・チャレンジテストの実施等の着実な取り組みが本市各小中学校に浸透してきている事が挙げられます。

◆調査結果より

- ◇本市においては、道教委が掲げた「平均正答率を全国平均以上にする」との目標を小学校6年では全科目で達成し、中学校3年でも同等か上回るなど、確かな成果を上げています。

このことは、教職員の加配、小規模校での教育の充実、支援員の配置、長期休業中の学習支援による学習内容の着実な定着、英語教育の推進、演劇教育などを通じた表現力の育成はもとよりコミュニケーション能力の向上が図られるとともに、電子黒板・タブレット端末等の導入によるICT化の推進による成果が着実に現れてきたものと考えられます。

※今後の授業改善の取組

- 授業ごとに「つけたい力」を明確にし、到達させるための手立てを講じていきます。
- 「根拠」に基づいて「理由」をつけて考えを書いたり話したりする場面を積極的に取り入れた授業を工夫していきます。
- 授業中に子どもの理解の状況を丁寧に見取り、定着の状況を把握し、実態に即した意図的な働きかけをしていきます。
- 児童生徒が「分かった、できた」を実感できるように授業に「まとめ」と「振り返り」を位置づけていきます。

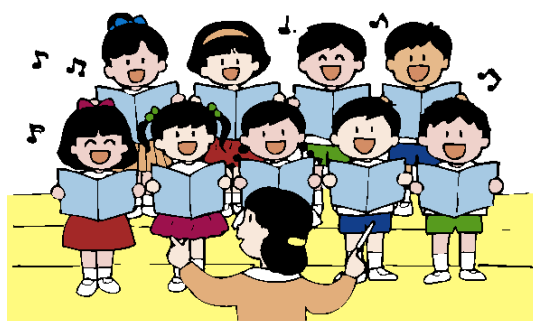
この調査結果を踏まえ、学力向上に向けた取り組みを、『第2次富良野市学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)』及び『富良野市ZERO運動』を基軸とし、充実した教育活動が展開できるよう推進していきます。

『第2次富良野市学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)』

学校教育中期計画(平成20年度～平成24年度)は、「自立と共生の未来を拓く、心豊かでたくましい人を育む」ことを基本理念に掲げ、策定された計画です。この間の成果と課題を土台とし、子どもたちが変化の激しい時代をたくましく生き抜き、自らの未来や社会を拓く「生きる力」をオール富良野で育てていくため、第2次学校教育中期計画(平成25年度～平成29年度)を策定しました。

『富良野市ZERO運動』

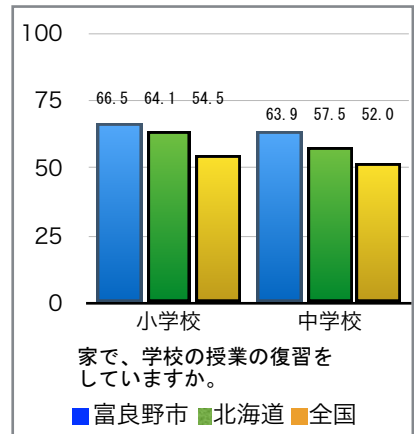
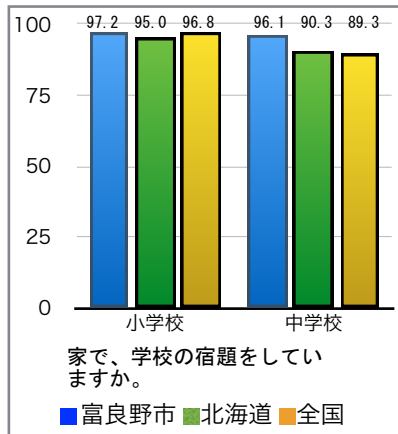
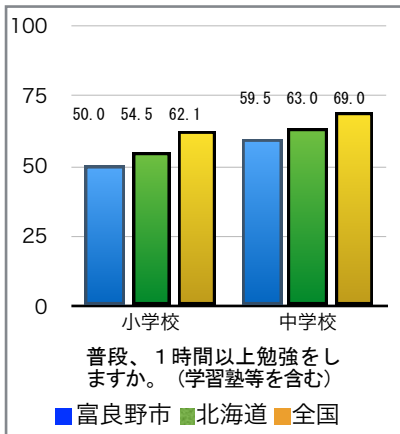
ZERO「0」は、教育の原点であり、和(輪)を表わす「学び」を支える象徴として捉えることができます。「ZERO運動」は、各学校や教職員等が、教育の原点を見つめ直し、主体性や向上性を基軸として教育実践の輪を広げていくことを意味しています。



質問紙調査に関する結果の概要について

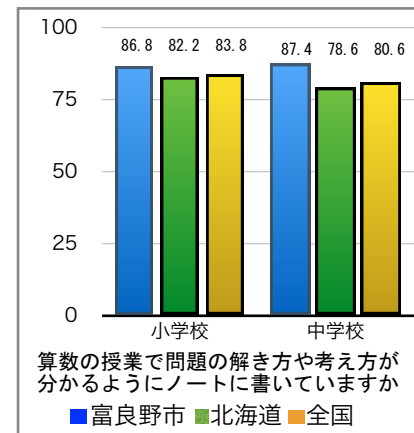
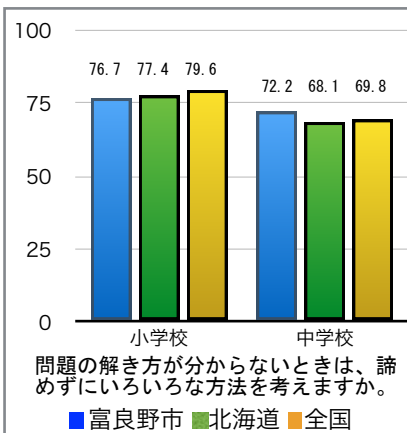
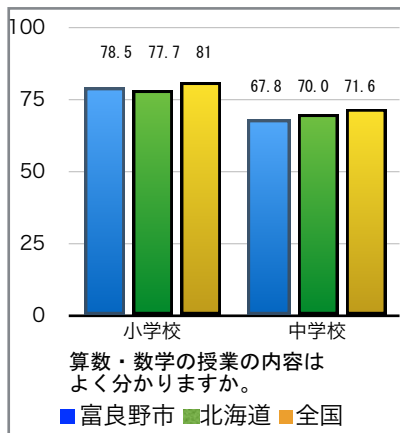
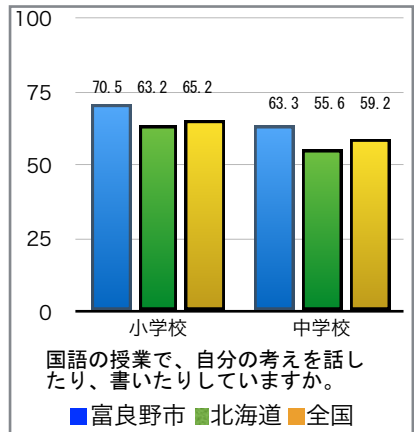
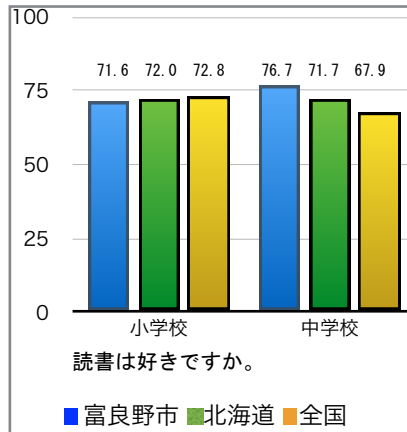
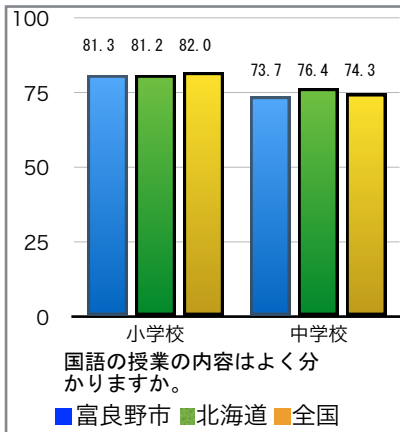
○学習習慣について

※グラフの数値は、「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」と回答した割合です。



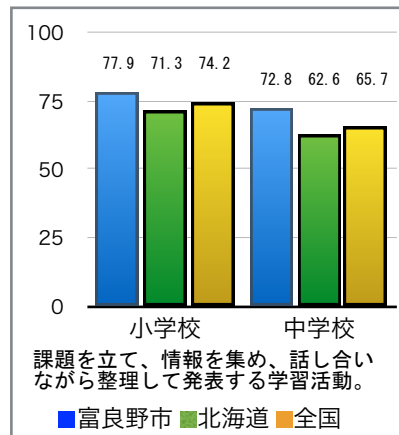
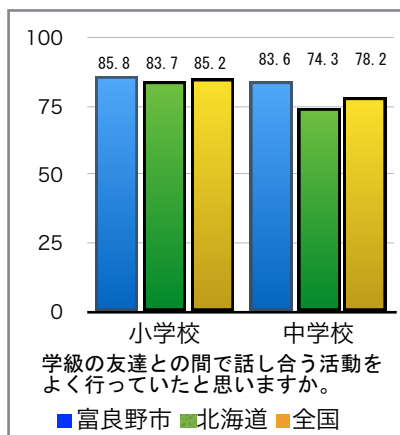
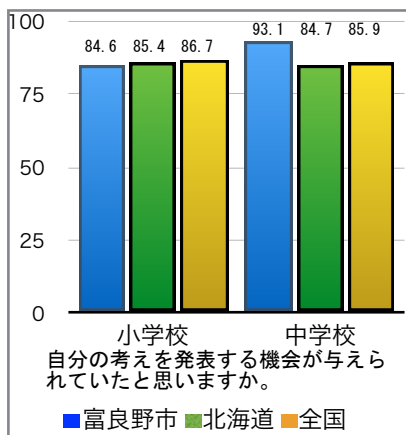
各校が家庭学習の取り組みを推進してきたことで、宿題や復習に取り組むようになってきている状況が見られる。しかし、勉強時間は今年度も全国平均に比して低く、2時間以上勉強している割合となると全国に比して半分近くである。学習塾に通う児童生徒の少ない本市では、学年に応じた学習時間を確保するため、家での過ごし方の見直しを含めた家庭の協力が求められる。

○学習（国語、算数・数学）について



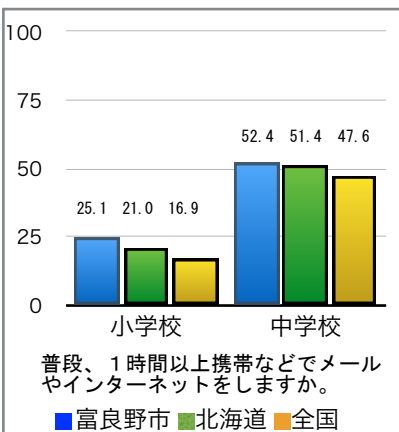
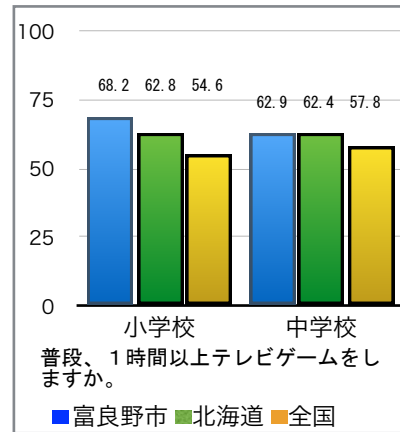
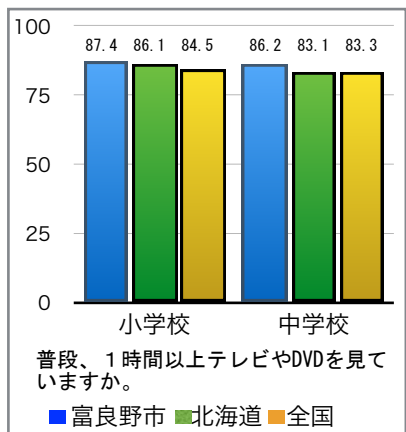
「授業の内容がよく分かる」と回答した割合は小学校の方が高い理由として、中学校では学習内容の難易度が高くなることが考えられる。「読書が好き」「自分の考えをノートに書く」と回答した児童生徒の割合が高いことから、これまでの市立図書館を中核とした読書活動の推進や授業改善の取り組みが着実に進められてきていることの成果が現れてきていると言える。

○学校での授業について



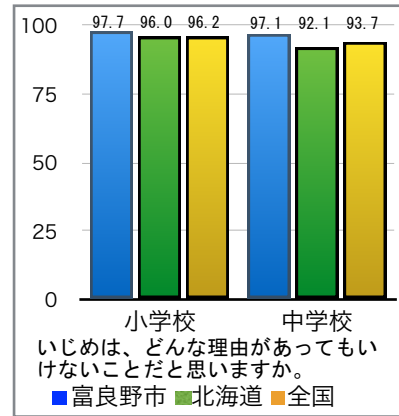
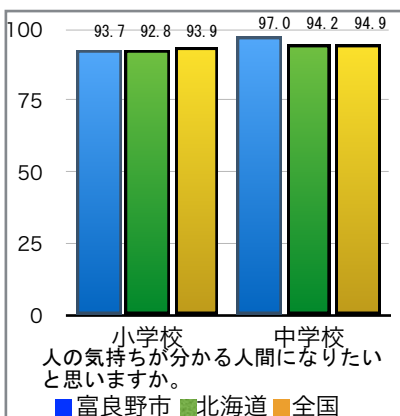
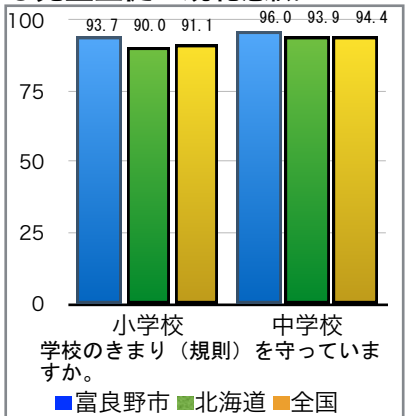
課題解決的な指導過程を通して主体的な学びを培う授業の成果が児童生徒の回答に現れている。また、演劇教育・少年の主張・子ども未来づくりフォーラム・新聞コンクール等の取組を通して、大勢の前で表現する活動への地道な取組の成果がこの数値となったと受け止めている。

○家庭でテレビやゲーム・インターネットに充てる時間



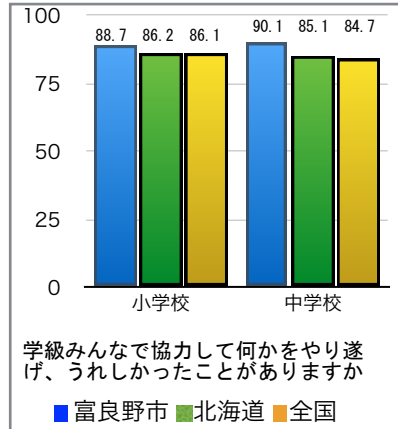
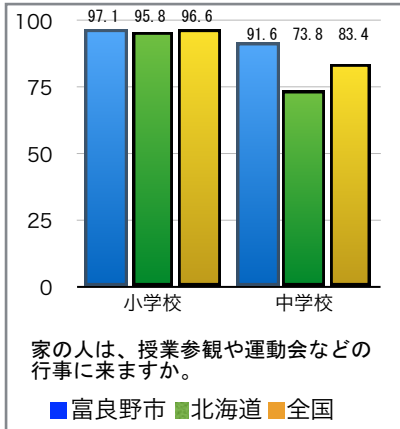
家で、1時間以上の視聴時間の児童生徒が80%を超える。また、1時間以上テレビゲームをしている児童生徒が60%以上であることから、過半数の児童生徒が家庭で過ごす時間の2時間以上をテレビやゲームに充てていることになる。更に、1時間以上メールやネットをする児童が前年比10.5ポイント上昇していることから、家庭におけるネット等の利用について検討していかなければならない。

○児童生徒の規範意識について



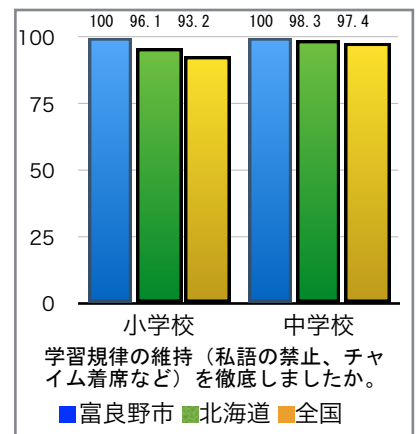
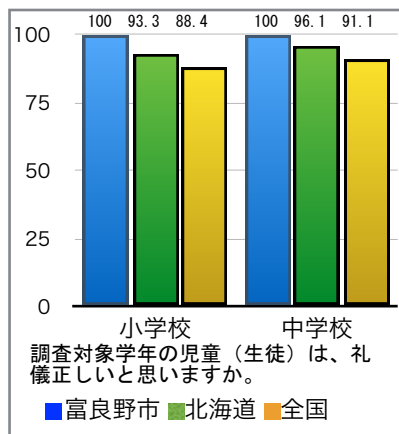
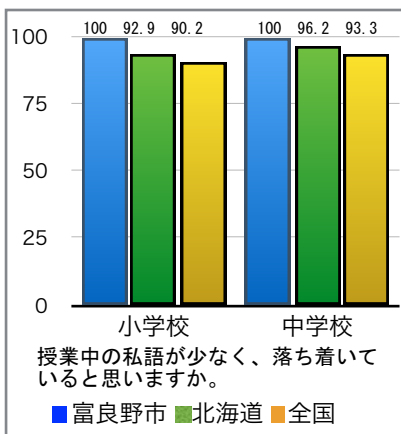
「ZERO運動」、「道徳教育」、「あいさつ・立腰指導」など、学校での日常的な取組の成果が児童生徒の回答に現れている。

○学校行事等への参加意識



仲間と協力して取り組んだ達成感の高さは、保護者の学校行事等への参加意識の高さに裏打ちされていることがうかがえる。

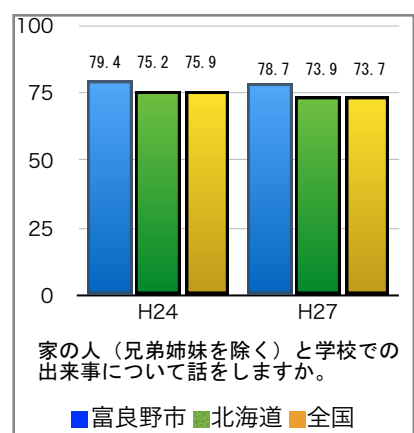
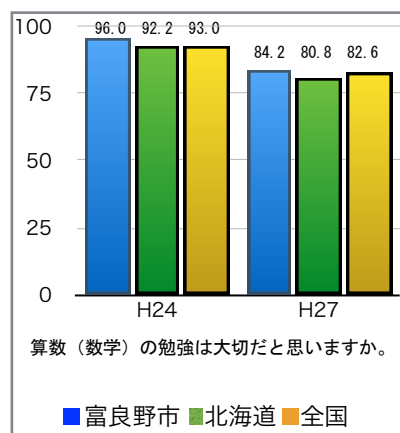
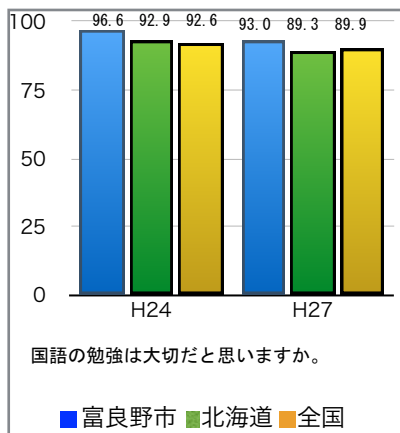
【学校質問紙】（管理職の認識）



小・中学生ともに、学校生活では学習規律を守り、礼儀正しく過ごし授業態度も落ち着いていて真面目に学習に取り組んでいる様子がうかがえる。日頃の学校生活での過ごし方の良さが、本市児童生徒の成績が全国平均正答率と同等か上回ったことにつながったと言える。

中学校3年生(平成27年度)の小学校6年時(平成24年度)との比較

学習への姿勢や家族との会話に関する質問紙調査



中学3年が、小学6年の時に同じ質問に回答した結果とを比較したのが上記のグラフである。小学生の時から国語や算数を勉強することの意義を理解し、意欲的に学習に取り組んできた事が読み取れる。また、成長にとって重要な存在である家庭において、親子の会話が確保されている状況から、本市児童生徒は、家庭での安らぎを得ている割合が高いことが推測される。

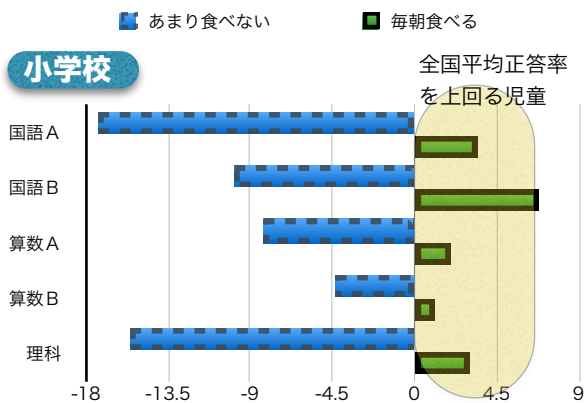
生活習慣等と学力との相関

生活習慣が、学力にどのような影響を及ぼすのかを分析したグラフを以下に示します。

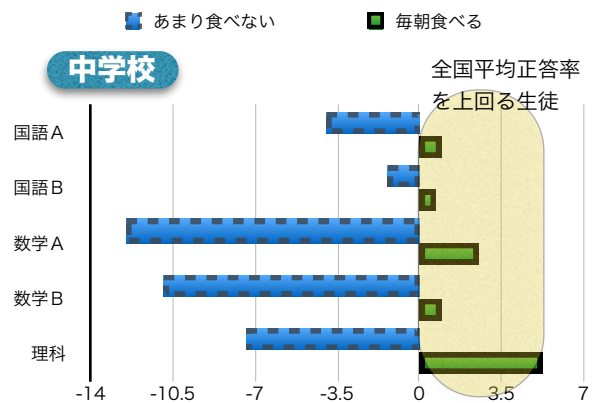
- 生活習慣と学力との相関を見てみると、毎朝しっかり朝食を食べ、決まった時刻に眠り、ゲームやスマートフォンはせず、親子でよく会話し、計画的に学習に取り組み、適切な家庭での学習時間を確保し、宿題や復習をこなしている児童生徒の方が、そうでない児童生徒よりも明らかに全国平均正答率との差が少ないか、全国平均正答率を上回っていることがわかります。
- 国語A・B、算数・数学A・Bの各項目について調べたところ、小中学生とも毎日朝食を食べる子は、全ての科目で全国平均正答率を上回っている。小6で全国平均正答率を最大5.3ポイント、中3で最大5.7ポイント上回り、食べない小6は17.3ポイント、中3で12.5ポイント下回る科目があった。
- 平日テレビゲームをしない小中学生は、全科目で全国平均正答率を上回り、小6で最大14ポイント、中3で最大7.7ポイント全国平均正答率を上回っている。
- スマートフォンを所持しない小中学生は、小6で最大3.4ポイント、中3で最大8.1ポイント全国平均正答率を上回っている。
- 計画的に勉強する小中学生では、小6で最大13.5ポイント、中3で最大5.3ポイント上回り、宿題をしている児童生徒は全国平均正答率を全ての科目で上回っている。
- 地域や社会で起こっている問題への関心が高い小中学生は、全ての科目で全国平均正答率を上回り、小6で最大13.7ポイント、中3で最大11.6ポイント全国平均正答率を上回っている。

グラフが示す数値は、児童質問紙調査で各質問項目の下記に示す選択肢に「当てはまる」と回答した本市児童生徒のそれぞれの項目について、教科に関する調査の平均正答率と全国平均正答率との差を求めたものです。

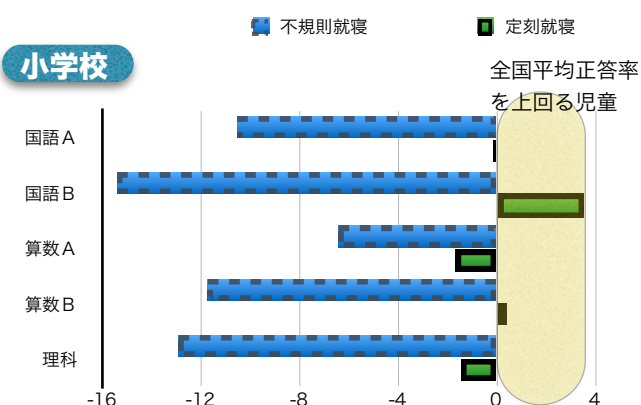
○毎日朝食を食べている



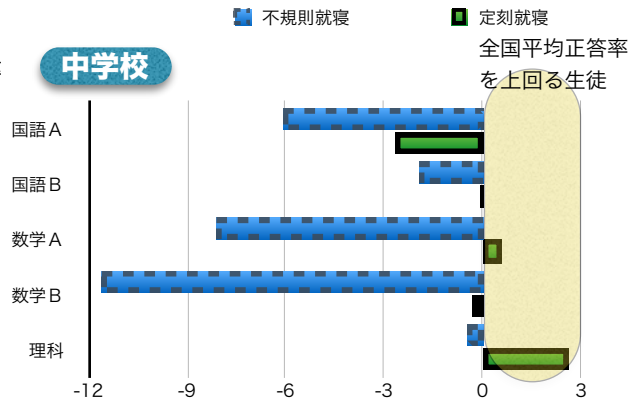
○毎日朝食を食べている



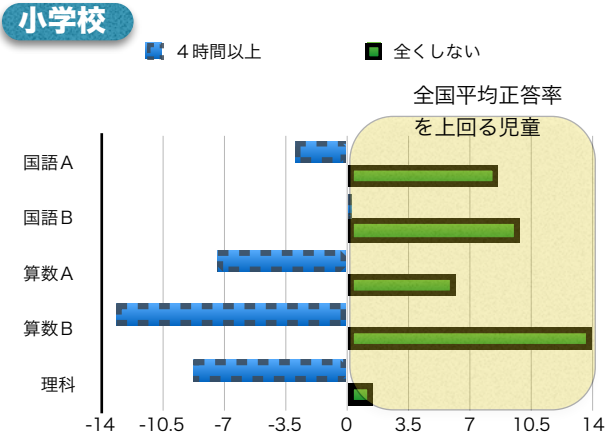
○毎日、同じくらいの時刻に眠っている



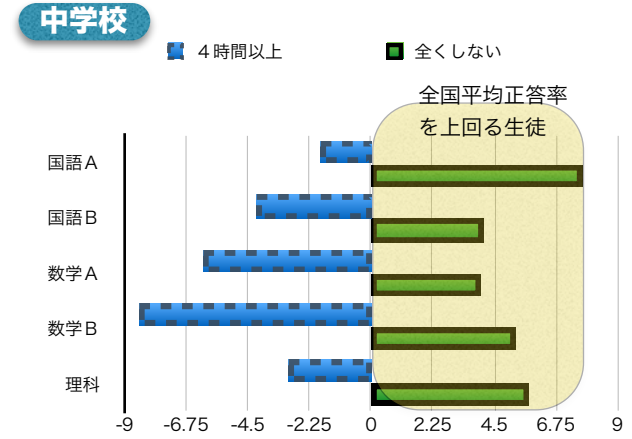
○毎日、同じくらいの時刻に眠っている



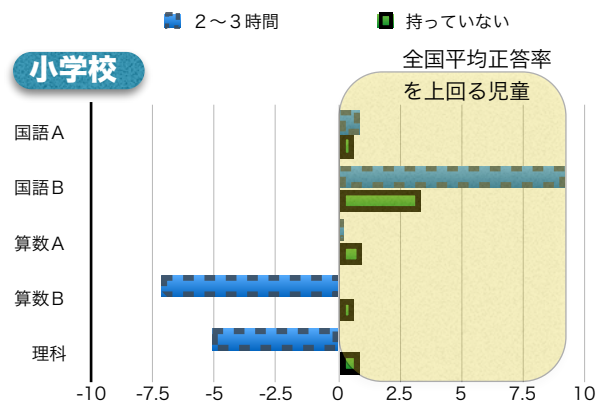
○テレビゲーム等にあてる時間



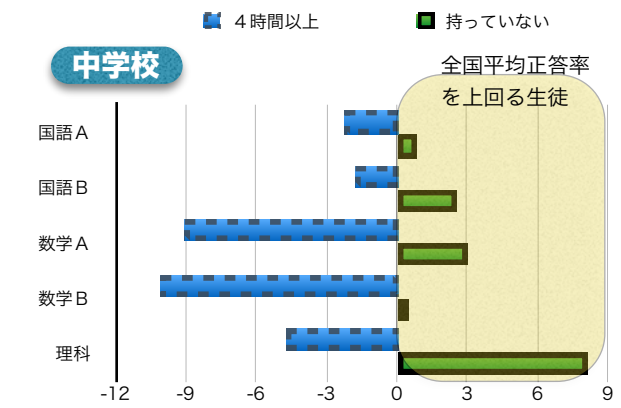
○テレビゲーム等にあてる時間



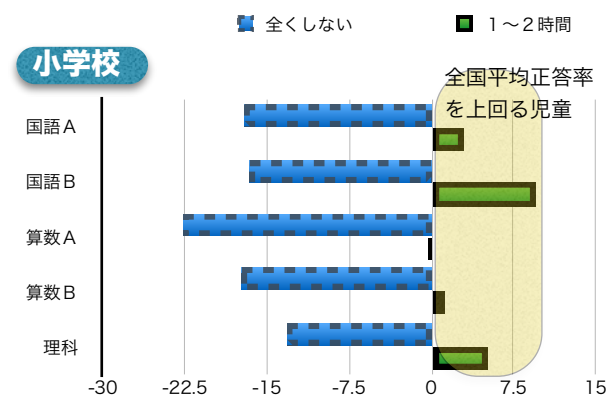
○スマートフォンの使用時間



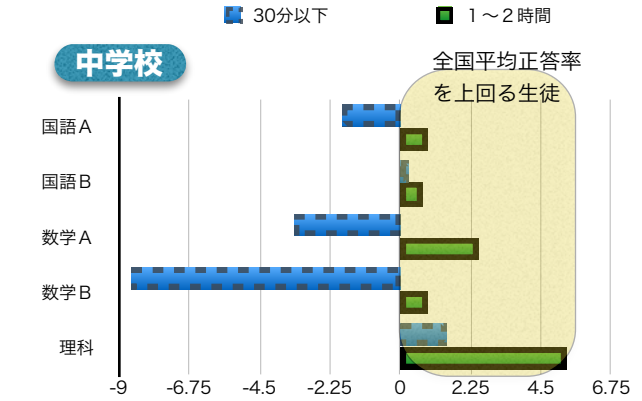
○スマートフォンの使用時間



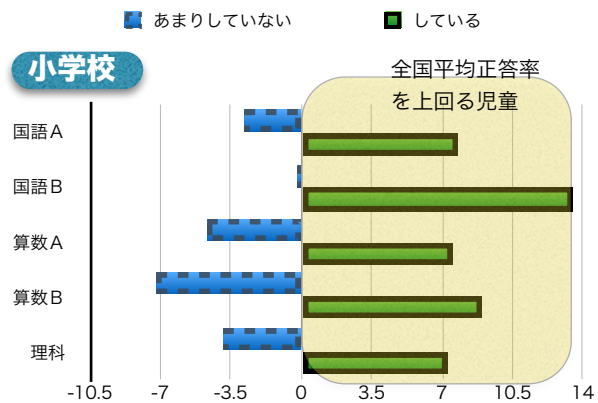
○平日の家庭学習にあてる時間



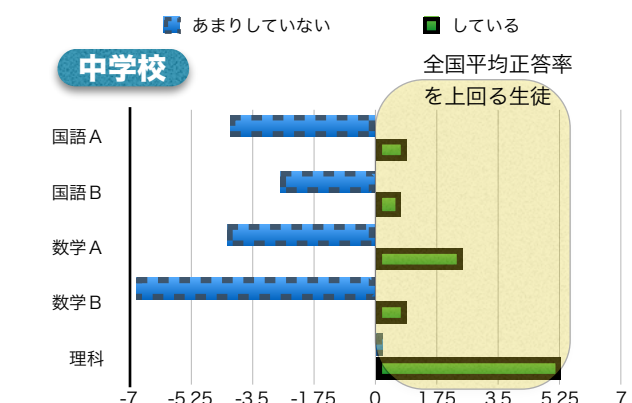
○平日の家庭学習にあてる時間



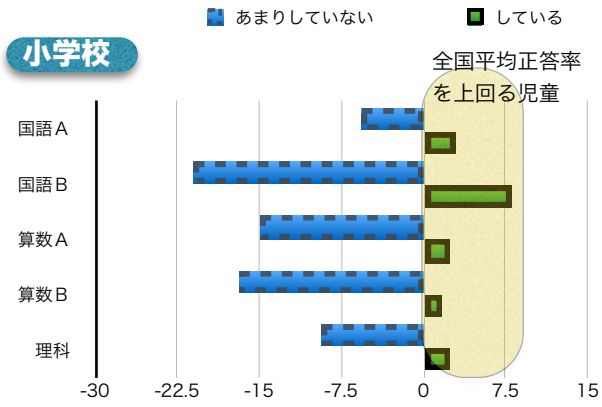
○家で、計画を立てて勉強している



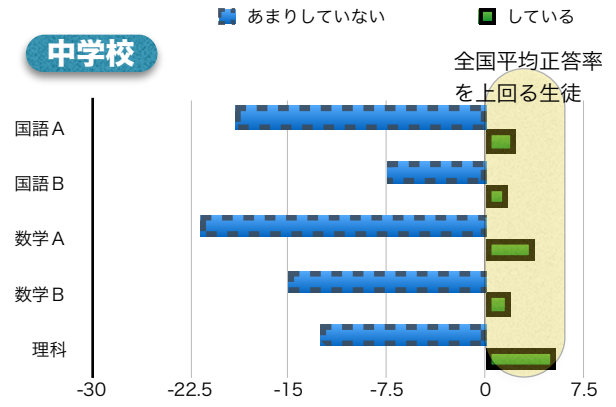
○家で、計画を立てて勉強している



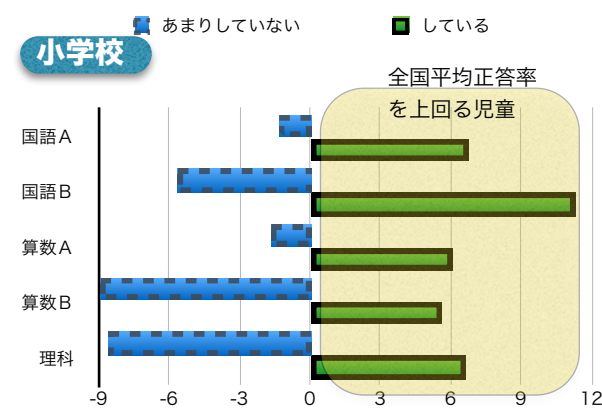
○家庭での宿題の状況



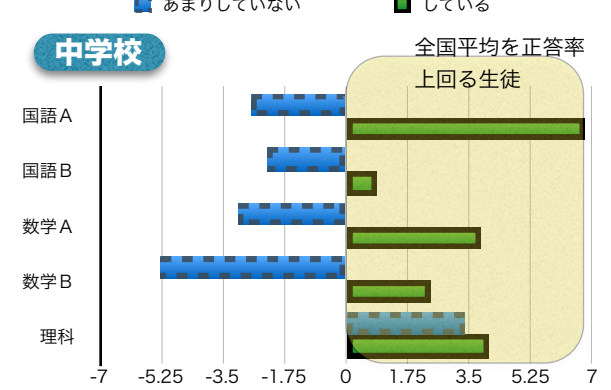
○家庭での宿題の状況



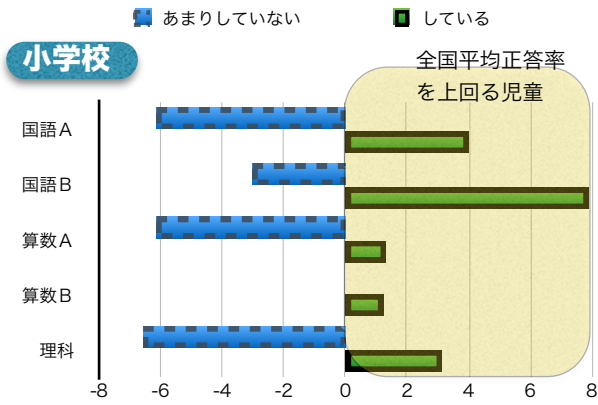
○授業の復習の状況



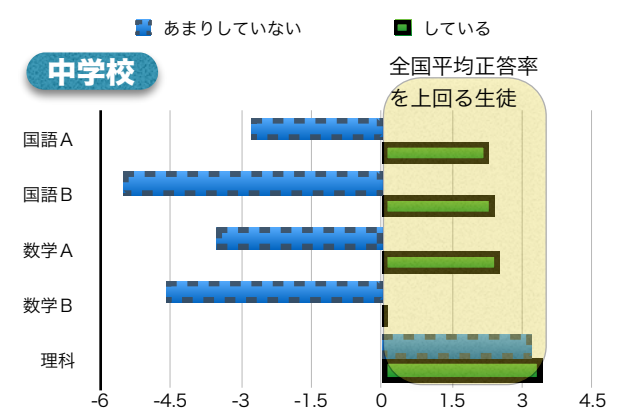
○授業の復習の状況



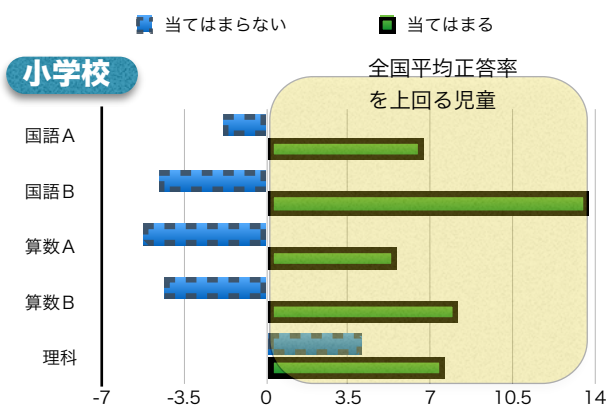
○家の人と学校での出来事を話す



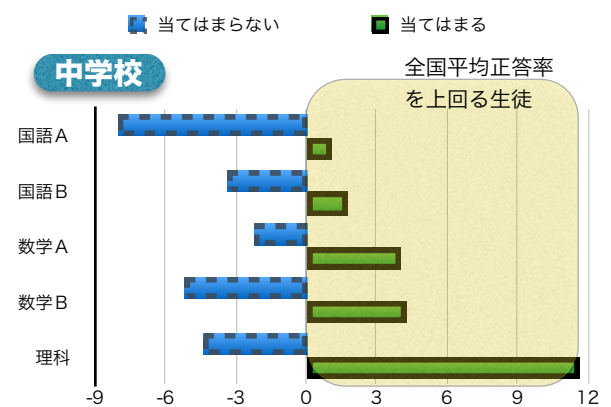
○家の人と学校での出来事を話す



○地域や社会で起こっている問題への関心



○地域や社会で起こっている問題への関心



課題と改善のポイント

保護者・地域の皆様へ

子どもの学力については、学校が責任をもって取り組んでおり、教員の指導力向上に向け授業公開や授業研究等、全力を挙げて推進しております。この大前提を押さえた上で、学校での学ぶ力を支えると共に、もっと大きな意味で、大人になっても自ら学んでいくための『土台』を、よりしっかりとしたものにするには、小・中学校時代に学校と家庭が力を合わせて、「家庭学習の習慣をつけるとともに、子どもの学びに対する興味や関心を広げること」が、極めて大切です。

家庭学習を定着させるには、「学び」の土台となる「早寝早起きをする」「挨拶をする」「家事を分担する」などの家庭での“しつけ”が重要です。



「あいさつをする・人の話を聞く・相手を思いやる・いじめをしない・時間を守る・靴を並べる・掃除をする」など 大人も子どもも「当たり前の事が当たり前ができる」よう、学校でも、家庭でも、地域でも、取り組みましょう。

進んで学ぼうとする力は、『子どもが一番安心できる家庭で、安定した生活リズムの中、毎日学習に取り組む』ことで育ちます。

大人はもう一度足もとを見直し、決してその時々気分や感情に流されず、大人としての責任を自覚して、家庭学習の充実を目指しましょう。改めるべきことは改め、当たり前のことは、当たり前のこととして推し進めるとともに、家庭を学びの環境に整えていきましょう。

- 生活リズムを整え、決まった場所と時間で学習に集中できる環境を
- 認め、励まし、対話のある温かなかわりを



家庭で

学ぶ力

- 基礎学力をつけ、学び方を教え、子どもが思考を巡らす課題や発問が提示される授業を



学校で

心身の健康

～ほめて伸ばそう 子どもの学力～

行政、学校、家庭、地域社会が連携し、
確かな学力向上に努めます。

■教育委員会

- 学校、家庭、地域が一体となって取り組める体制づくりを推進します。
- 外部講師等の協力による継続的な授業の支援を推進します。

■学校

- 現状把握により明確な目標を設定し、学校全体で一つの課題に取り組む体制づくりに努めます。
- 学習への関心・意欲の向上を図り、学習の悩みゼロに努めます。
- 基礎・基本の確実な定着を図るため、指導体制・方法の工夫改善を図ります。
- 児童生徒が発表する場面や体験活動等を充実し、活用力を育てます。
- 家庭や関係機関と連携し、個に応じた特別支援教育の充実を図ります。
- 学校間・校種間の連携と円滑な接続に努めます。
- 予習・復習の仕方や必要性を自覚させ、家庭学習の定着化を図ります。

■家庭

- 『家族の約束7カ条』を推進しましょう。
- 日常生活での積極的なコミュニケーションに努めましょう。
- 規則正しい生活習慣と宿題のみならず、計画的な家庭学習（予習・復習）に取り組みましょう。
※ 小学校6年で毎日70分以上、中学校3年で毎日100分以上取り組みましょう。
- 「早寝・早起き・朝ごはん、みんなそろって晩ごはん」を実践しましょう。
- 「ほめて、伸ばす」家庭教育に取り組みましょう。

■地域

- 積極的に子どもたちと触れ合いましょう。
- 学校の応援団として、学校支援ボランティアへ登録しましょう。
- 学校の授業公開へ積極的に参加しましょう。

富良野市学力向上推進プロジェクト

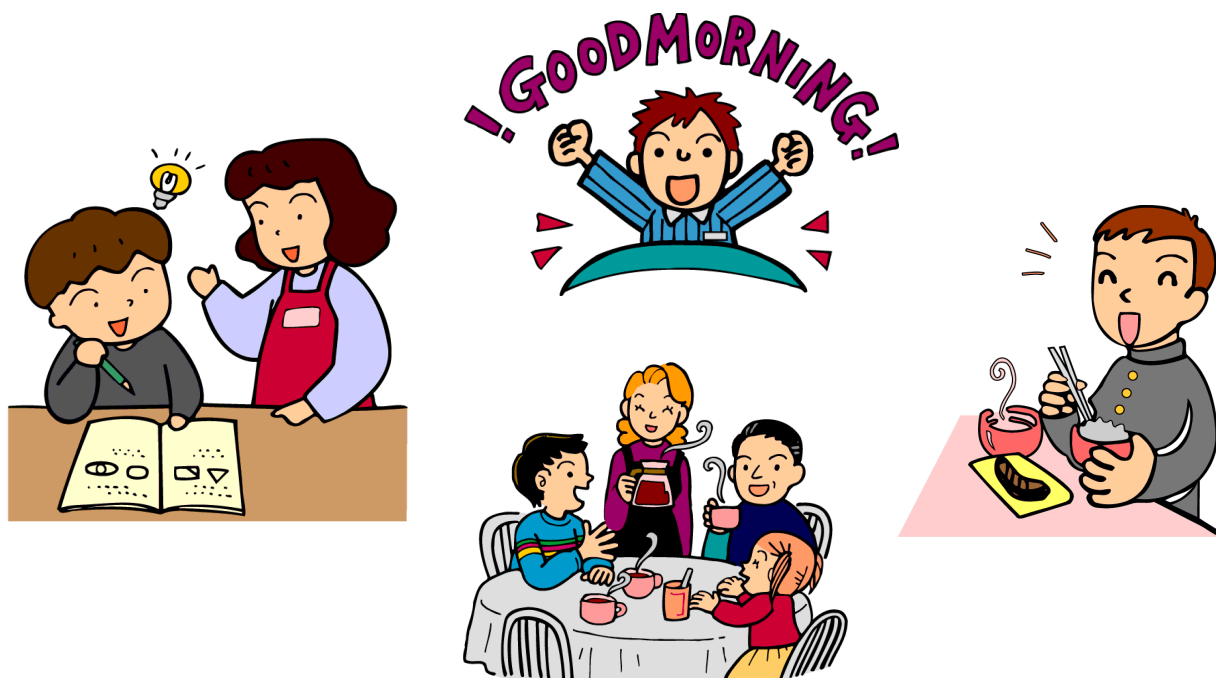
(富良野市PTA連合会・富良野市校長会・富良野市教育委員会)

家族の約束7か条

「すべては子どもたちのために」を合言葉に

1. 学習や生活習慣である「早寝・早起き・朝ごはん・みんなそろって晩ごはん」運動に取り組みましょう。
2. NOテレビ・NOゲーム・NOインターネットの日を設けて家族で読書に親しみ「絆」を深めましょう。
3. 学校行事やPTA活動に積極的に参加しましょう。
4. 子どもの危険信号(SOS)に早く気づき心配事は39-2333番(教育相談直通電話)へ電話しましょう。
5. 携帯電話・インターネットなどのネット被害から子ども達を守るため「家族のルール」を基本に家族の「絆」を深めましょう。
6. 授業参観や家庭教育(子育て)セミナー、講演会に積極的に参加しましょう。
7. 子育て家庭教育ハンドブックを活用し家族の「絆」を一層深めましょう。

富良野市PTA連合会・富良野市教育委員会



各校で取り組まれている主な学力向上策

【小学校】

- ・朝自習の仕方、朝読書の取組、授業の受け方等に統一して取り組んでいる
- ・学習規律の定着化を図るため「話し方」「聞き方」など、統一したルールを各教室に掲示している
- ・朝の学習を15分間設定し、主に国語や算数のドリル学習を中心に学習内容の習熟を図っている
- ・日常的に放課後指導に取り組み、理解が不十分な内容について補習を行う
- ・不定期であるが、放課後に全校一斉に学習時間を設定し、補充的な学習に取り組んでいる
- ・学生ボランティアによる長期休業中の学習サポートの実施
- ・チャレンジテストなどの活用
- ・TTや習熟度別指導の取組を通して、個に応じた学習を効果的に進めている
- ・個の実態に応じ、個別学習計画の作成とそれに基づいた指導や、課題、家庭学習の指導
- ・児童が単位時間毎に「見通し」と「振り返り」ができる授業構成を工夫
- ・「学びの支援委員会」による支援体制の整備
- ・義務教育9年間を見通した学習指導を行っている
- ・全校読書の日を週1回設定し、読解力、思考力、表現力の向上を図っている
- ・ロング読書タイムを設定することで、読書意欲の向上を目指す
- ・家庭学習の手引き配布と学習計画表の記入、保護者のコメント依頼 など

【中学校】

- ・毎週の朝の小テスト実施による学力分析と学力向上対策の策定
- ・日課表に「朝読書の時間」(10分間)を位置づけ継続し実施している
- ・基礎学力の向上、活用力の向上。基礎基本を活用する授業づくり
- ・読解力の向上、読書活動の工夫、読書習慣の定着、充実
- ・コミュニケーション能力の向上。しっかり話を聞き、自分の考えを発表する力の育成
- ・個の実態に応じた、個別学習計画の作成とそれに基づいた指導や、家庭学習の提示
- ・発達段階に合わせ、9年間を見通した学習規律とノート指導の確立
- ・全学年、数学における複数教師による指導
- ・定期テストに向けた放課後の学習サポートの実施
- ・繰り返し学習の徹底
- ・個のつまづきに応えるノート指導の徹底
- ・長期休業中、放課後における学習サポートを学力向上委員会を中心に組織的に行っている。また、各教科の特性によっては、毎日の小テストの実施や放課後の補充学習などを実施している
- ・研修部が中心となって、学習の手引きの作成
- ・「学力向上プロジェクトチーム」を設置し、全教職員体制による取組
- ・学力向上を意識した研究主題の設定
- ・家庭と連携した学力向上策の実施
- ・各学年での家庭学習の定着に向けた取組(家庭学習ノート等)
- ・家庭との連携を密にした交換ノートの活用による学習習慣の確立